

校種 (学級種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童生徒の 実態	<p>1年T児：勝ち負けにこだわりがあり、負けてしまうと泣き叫んでしまうことがある。</p> <p>1年S児：疲れがたまるとイライラし、その場で固まってしまうことがある。</p> <p>4年M児：苦手なことを取り組むことに抵抗があり、やり直しがあると癇癢を起したり、急な予定変更があるとパニックになったりする。</p> <p>4年I児：自分の苦手なことに対して、なかなか前向きに取り組めないことがある。</p> <p>5年U児：自分の思いを言葉で表すことが苦手で、大声を出したり、教室から飛び出したりしてしまうことがある。</p>	ねらい ・ 指導内容	<p>A 感情には様々な種類やレベルがあるということについて、</p> <p>B 気持ちの温度計やシンキングツールを使って自分の感情を客観視していくことを通して、</p> <p>C 感情のコントロールができるようにする。</p> <p>1 健康の保持 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること</p>
評価の 着眼点	感情にはレベルがあり、そのレベルによって言葉での伝え方や対処法がそれぞれあるということに気づき、自分事として考え、コントロールしようとしている。		
指導の経過・工夫点・子どもの 変容	<p>○毎日の習慣であるビジョントレーニングを行い、集中力を高め、落ち着いて学習に入ることができるようにする。</p> <p>○感情を表すキャラクターを紹介して、感情にはいろいろな種類があることを確認する。</p> <p>○それぞれの感情の役割を紹介し、どの感情も大切なものであることを伝える。</p> <p>○感情の種類の中で、本時は怒りと悲しみの感情について考えることを押さえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 自分の気持ちを見つめてみよう。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 100px; border-left: 2px solid black; margin-right: 10px;"></div> <div style="width: 80%;"> <p>○最近の出来事でイライラしたことや悲しかったことがあったか思い出させる。</p> <p>○連絡帳や学級担任からきいた情報をもとに子どもから話を引き出す。</p> <p>○気持ちの温度計を提示して、そのときの温度を当てはめてみる。</p> <p>○気持ちの温度計を提示して、感情のレベルが5の状態のときを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【中心発問】 怒りにかくれた自分の気持ちには、どのようなものがあるかな。</p> </div> <p>○怒りには、見えない部分にいろいろな気持ちが隠れていることを押さえる。</p> <p>○ロイロノートのシンキングツール（くらげチャート）を使い、怒っている自分の心には、怒りの他に隠れている気持ちがないか考える。</p> <p>○レベル5になっている自分に気づき、怒りのレベル（気持ちの高ぶり）は下げられることを知り、5になる前に防げるようになることを指導する。</p> <p>○気持ちの温度を下げる方法（感情をコントロールする方法）を考える。</p> <p>○すでに実践しているクールダウンの方法を発表する。</p> <p>○自分でも取り組むことができそうなものを知る。（資料の提示）</p> <p>○学校生活の中で、自分に合う方法を見つけ、気持ちと上手につき合いながら過ごすことを確認する。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>【振り返り】</p> <p>怒っている人の心には隠れている気持ちがあることが分かった。</p> <p>怒ったときは、心の中で数を数えたり、深呼吸したりすると、気持ちを落ち着かせることができるので、自分でもやってみたい。</p> </div>		

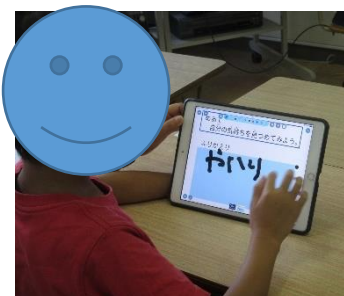
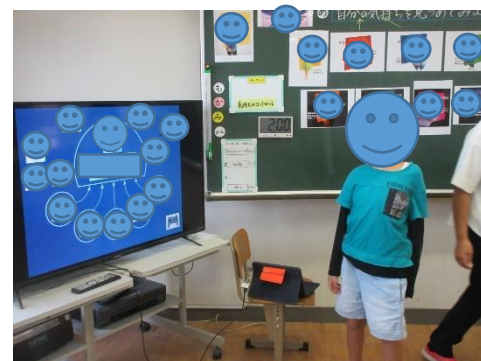
成果と課題・今後の方向

【成果】

- ・学習の流れを細かく示したことで、どの学年の子どもたちも見通しを持って、安心して学習に取り組むことができた。
- ・熊本市教育センターのWeb教具「気持ちの温度計」とロイロノートを用いて、ICTを活用しながら自分の気持ちを自己分析することができた。
- ・ロイロノートのクラゲチャートと、「インサイドヘッド2」の感情のキャラクターを用いて、自分の気持ちを自己分析したり、自分の心をメタ認知したりする活動を取り入れた。人間は複雑な心の持ちようがあることを冷静に考え、怒りの中にも隠れた気持ちがあるということを視覚的に捉えることができた。
- ・振り返りの時間を5分確保することができた。

【課題】

- ・1年生～5年生までの児童が同じように興味を持って取り組むことができるようにICTを活用して学習させたが、ローマ字入力やかな入力、音声入力などの方法に能力の差が出てしまい、振り返りをタブレットで入力することが難しい1年生がいた。
- ・学習リーダーを立てて、1時間の学習を進めるように9月末から取り組んできた。(複数人在籍の1,4年生のみ)しかし、まだまだ児童だけで進めることが難しい場面も多く、本時は途中から時間配分の関係で、教師が進めてしまった。
- ・クールダウンの方法をみんなで一緒に確認したので、実生活の中でも使えるようにしていけるようにすることが今後の課題である。



※個人情報や著作権の関係で、写真の一部を加工しています。